

模擬授業を活用した「社会・地理歴史科教育法」実践報告

太田 正行

1. はじめに

教育実習に必要な教科指導に関する知識や技能を身に付けることを目指す科目が「社会・地理歴史科教育法」である。筆者は、1977年から34年間公立高等学校に勤務し多くの実習生を指導してきたが、大学での指導が不十分なため、教壇実習に課題がある学生も散見された。そのような観点から、中学校社会科及び高等学校地理歴史科の授業を行うために必要な教材研究の方法、学習指導案の作成、教科書や副教材の使用法、資料やワークシートの作成などを受講生自らが実践を通して学べるよう授業を工夫してきた。この授業では、学習指導案や教材を自ら作成し模擬授業を行い、受講生間で評価し合いよりよい授業ができることを目指した。

2. 授業実践の概要

筆者は、2012年度に立教大学新座キャンパスで「社会・地理歴史科教育法1」「社会・地理歴史科教育法演習1」「社会・地理歴史科教育法2」の3科目を担当、同大学観光学部の12名の学生に模擬授業中心の授業を行った。観光学部の学生の視野の広さや興味・関心の多様さには感心させられた¹⁾。2014年度は、立教大学池袋キャンパスで春学期に「社会・地理歴史科教育法1」、秋学期に「社会・地理歴史科教育法演習1」、「社会・地理歴史科教育法2」を担当した。池袋キャンパスでは、同大学文学部とくに史学科の学生が中心で、文学部他学科

や法学部、経済学部の学生がわずかに受講するという状況で、受講生は40名を超えることになった。新座キャンパスでは、受講生が10名程度であったため、各科目で1回、3科目で合計3回の模擬授業ができたが、40名を超える池袋キャンパスでは、3人グループで協力して指導案や教材を作成し、代表者が模擬授業を行うことにした。受講生は、原則として春・秋通年で受講するため、全員が1回は教壇で模擬授業を実施することができた。

3. 事前指導

第1回の授業では自己紹介を行い、筆者が勤務してきた公立高等学校7校について説明した。多くの受講生は全日制普通科卒だが、高等学校には、普通科のほか商業科、工業科など専門学科高校があること、全日制のほか定時制高校についても筆者の経験から説明した。さらに、自らが受けた中学校社会科及び高等学校地理歴史科・公民科の授業をアンケート形式で振り返ってもらった。そこから明らかになったことを次回に集計して報告し、自らの模擬授業の参考とさせた。アンケート結果では、以下のことが分かった。なお、受講生42名のうち、文学部史学科が27名(64%)、法学部6名、経済学部4名などであり、2名は途中放棄した。2015年度は、受講生は47名で文学部史学科は27名(57%)であった。

①出身地・出身高校について：回答者36名の

うち、東京・千葉・埼玉・神奈川の首都圏4都県出身が27名、公立高卒が20名、私立高卒が16名であった。2015年度は45名のうち、首都圏4都県で36名、出身高校も公立25名、私立20名であった。首都圏4都県、多くは自宅通学と考えられるが7～8割、私立高校の多くは中高一貫校卒業生で4割を越えている。

②中学校社会科の授業について:好きな分野は、歴史的な分野が28名(2015年は33名)、地理的分野4名(8名)、公民的分野4名(4名)となった。史学科の学生が多いためもあるが、歴史的な分野が圧倒的な人気であった。「歴史」は人物が出てくること、ストーリー性があること、子どものころからゲームや漫画、テレビドラマなどで歴史に触れる機会が多かったことなどのほか、履修学年が第1～2学年で教師が興味・関心を持たせる授業の工夫がしやすいことも考えられる。これに対し、「地理」や「公民」では地図が好きであることやニュースが分かるようになることなどが挙げられた。特に「公民」は第3学年で履修するため、公立高校入試直前まで知識詰め込み式の授業になりがちなることもあり、このような結果となったと考えられる。

③高等学校地理歴史科の授業:高等学校では世界史は必修であり、さらに多くの受講生は日本史も履修し地理の履修者は極めて少ない。いわゆる「進学校」の卒業生が多いためか、ほとんどの歴史の授業が穴埋めプリントと板書によるもので、「チョークアンドトーク」の授業であることが再認識された。大量の情報を整理し覚えさせるような授業

である。ほぼ全員が入学試験で世界史か日本史を受験科目としている。

④高等学校公民科の授業:多くの受講生は2単位の「現代社会」を履修しており、大学入試にはあまり関係ないためか、穴埋めプリントを用いた授業もあるが、時事問題や視聴覚教材を活用した授業もあった。

⑤教師志望のきっかけ:クラス担任や教科担当者、部活動顧問など今までに出会った教師の影響が最も多く、授業が楽しかったことや大学で学んだことを生徒に教えたいなどが挙げられた。

⑥教育実習で行う授業:楽しく、分かり易く、退屈しない、生徒が興味を持つような授業が挙げられていた。

この理想の授業と関連させ、「児童・生徒は社会科・地理歴史科・公民科についてどう考えているか」という、国立教育政策研究所が行った「教育課程実施状況調査」の結果を紹介した²⁾。小学校、中学校、高等学校と校種が進むと社会科等の勉強が好きな生徒の割合が減少、とくに公民科は好きな生徒が最も少なかったが、公民科の勉強が大切だとする生徒は最多となっている。授業がどの程度分かるかでも、校種が進むほど分かる生徒が減少し、高等学校の公民科は地歴科と比較すると理解度が低い。受講生はこの結果から以下のように考えた。

- *生徒が頭を使い考える時間を作り、ただ単語を並べるのではなく流れを追えるような説明が必要である。一度興味・関心を持てば、生徒は自ら学ぶ姿勢を持つと思う。
- *生徒が興味を持つような話題を授業の導入にし、注目を集めて授業を展開して行く。グループ学習やディベートなど生徒自らが積極的に学べるような学習の機会を多く作る。*板書を写すだけでなく、ただひたすら覚えるのではなく、生徒に考えさせたり視聴覚教材を活用したりして体験型授

業にする必要がある。楽しい授業を目指したい。

生徒の興味・関心を高め、学習意欲を高めるための工夫を具体的に考えている受講生が多かったが、それを模擬授業にいかにか活かすか、なかなか難しかったようだ。

第2回目以降、学習指導案の作成と教科書の活用法、学習指導要領の読み方、教材研究の仕方などを、具体的な1時間分の学習指導案のもとに講義し、教育実習生の教壇実習のDVDを視聴した。DVDは、「教育実習生の授業～その変容を見る」で中学校社会地理的分野のもので、公立中学校第1学年生徒対象の授業、実習生が教壇実習を繰り返すことにより徐々に完成度の高い授業に変容していく様子を記録したものであった。指導教員の指導内容も適切で受講生には大いに参考になったようだ。

* 導入で、西アジアの位置を白地図で確認したことは良かった。ファミコンやケーキなど生徒の身近な例を出して説明したのも良かった。
 * 教材は大学生の目ではなく中学生の目で選ぶことが大切であることが分かった。
 * 「真ん中より少し下の子どもが分かるような言葉づかい」との指導が印象に残った。
 * 自分が生徒だったらその授業に興味を持てるかということを考えなければならない。
 * 生徒の方を見ながら授業を進めていた。導入では今日の授業の主題を述べるとよい。
 * 新しい用語は教師から提示するのではなく、生徒が教科書等から読み取り獲得させるのがよい。教材研究を熱心に行ない伝えたいことは沢山あったが、絞って話すことが必要。

公立中学校第1学年の社会科「地理」の授業では、実習生が熱心に教材研究を行い授業に臨んだが、自らが調べてきた内容を次々と提示したため、指導教員から一つの話をもっと深めるよう指導されていた。教材研究したことを全部話したいという、実習生が陥りやすい問題点が指

摘されていた。

4. 模擬授業

グループ編成を行い、指導案作成と模擬授業の準備にかかった。グループは3人で構成し、打合せの都合からできるだけ同一学部・学科とした。グループで役割分担し指導案作成、資料収集・教材作成などを行った。模擬授業の際には、学習指導案、該当部分の教科書や資料集のコピー、ワークシートや資料プリントなどを事前に提出させ、筆者が人数分印刷し配布した。この模擬授業に対し、全員が生徒と受講生の立場から評価を行い、できるだけ詳細で改善点を含むコメントを記入する作業を課した。評価の観点としては以下を挙げた。

- 1 学習指導案において、指導目標、指導計画、指導内容、時間配分など。
- 2 板書の分量や分かり易さ、見やすさなど。
- 3 生徒への配布資料、ワークシート、穴埋めプリント、資料プリントなど。
- 4 生徒の興味・関心、学習意欲を高める工夫がされていたか。
- 5 生徒の思考力・判断力・表現力を養う工夫がされていたか。
- 6 生徒に知識を理解させるような分かり易い授業であったか。

この評価票は出席確認ともなり、回収後筆者がコメントをまとめ次回に全員に配布した。模擬授業は90分の授業時間で2グループ、1グループ30分で行った。発問したり教科書を読ませたり、グループでの話し合いを行うなど各グループは知識詰め込みにならぬよう工夫していたが、多くは穴埋めプリントを用意し板書で

穴埋めさせていく自らが受けてきた授業から抜け出すことができなかった。

全ての模擬授業が終了したところで、これまでの模擬授業を振り返り共通する注意点などをまとめて話した。その際、評価票の観点を参考に講評を行った。

5. 地域調査

模擬授業終了後の1コマを使って教室を出て、豊島区立郷土資料館と自由学園明日館の見学を行った。中学校社会科や高等学校地理歴史科の学習指導要領では、身近な地域の調査で、「観察や調査などの活動を行い、生徒が生活している土地に対する理解と関心を深め」とあり、また、文化遺産や博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりして具体的に学ぶことが必要だとしている。この地域調査として、受講生が毎日通学している西池袋界隈の巡検を実施した。行程は、大学から徒歩で豊島区立郷土資料館、自由学園明日館(重要文化財)に向った。受講生が40名を超えるため、2グループに分け、班ごとに交互に見学することにした。豊島区立郷土資料館は、勤労福祉会館7階にあり手狭で20人がやっと収容できる広さだった。展示は、雑司ヶ谷鬼子母神境内を模した導入展示室、区民が使用した道具類や写真などを展示する収蔵展示室、そして、池袋ヤミ市や長崎アトリエ村の復元模型などがある。自由学園明日館は、羽仁吉一・もと子夫妻が1921年設立した女学校の校舎で、アメリカの建築家で帝国ホテルを設計したフランク・ロイド・ライトとその弟子の設計による建物であり、1997年国の重要文化財に指定された。最後レポートの一部に、この

地域調査の事前・事後学習に使用する教材を作成する課題を出した。地域見学については、以下のような感想が寄せられた。

* 教員は前後を見なければならぬし、生徒が信号を渡りきったか、広がっていないか、人数はいるかなど様々なチェックが必要であり、その労力がよく分かった。
* 知識では知っていてもやはり経験することが何よりの勉強だった。いつも何気なく歩いている道だったが、多くの生徒を引率して歩くことを考えながら歩いた。学校の地域には多くの教材があるのでどのようなものがどのような授業に取り入れられるか周辺を調べたり地域の歴史を調べたりして授業に取り入れ生徒に興味を持ってもらいたい。
* 戦争について、今まで授業やテレビで学んできたが、郷土資料館で見た当時の1枚の手紙や血のついた財布には敵わないと感じた。積極的に地域調査を行いたい。

6. 最終レポート

最後に受講生に期末レポートを課し評価の素材の一つとした。テーマは、I 自分のグループの模擬授業において生徒に伝えたかったこと、工夫したこと、教育実習にこの模擬授業をどう生かすかなど、他の受講生からのコメントについても充分参照すること。II この授業で学んだこと、他の受講生の模擬授業とその評価、コメント、配布した新聞記事などプリント資料及びビデオ資料なども充分に参照すること。I・IIについてA4サイズ(1枚1400字程度)各2枚以上、合計4枚以上とした。レポートの記述の一部を紹介したい。多くの受講生は指導案の作成や模擬授業は初めての経験であったため、教育実習を見通すことができたようだ。また、「社会・地理歴史科教育法演習2」での授業内容と関連させて記述したものも見受けられた。

* 立教新座の先生から、教員は一つの授業を組み立てるため基礎的な知識はもちろん、さらなる

勉強をして挑んでいることを知った。教科書に載っていることは生徒に伝えるための最低限の情報に過ぎず、もっと知っておくべき豆知識や背景となる知識があるはずだ。

*立教新座の先生によると「生徒を授業に参加させるには、手を動かすことが重要。実習生は板書中心に授業を行い、プリントには図や史料を抜き書きして生徒に活用させた方が良い」とのことだった。

*立教池袋の先生が、「社会科を教えるとき、私たちの生活とどのような関係にあるのかを教えると生徒の興味をひくことができる」と言われ、私たちの班でも意識的に現代の生活に通じるものを紹介した。

*ただ知識を与えるだけでなく、歴史を通してどんなことを学んでほしいのかを伝えたい。歴史はただ覚える暗記科目ではなく、自分で考察し現代に生かすことが大切だということである。そのメッセージが伝わると生徒を引き付けることができる。

*教育実習に行く覚悟ができた。教育実習への不安が大きかったが、以前より授業の構成や進め方を学ぶことができ、どうにか授業が行えるという自信がついた。

*学生コメントを私たちにフィードバックしてくれたので、それを見ることで模擬授業を客観的に見ることができた。コメントは手厳しいものもあったが、レベルアップした授業をつくれるよう努力したい。

*配布された新聞記事には、写真や絵が多く分かり易い感じがして読もうとする気がわいた。1か月間に何が起ったか、多方面から書いてあった。現在とのかかわりが見えてくると興味を持ちやすいし、授業やホームルームで積極的に活用したい。

*最近新聞を読むようになった。新聞は苦手と思っていた生徒も多い。1か月のニュースが分かる新聞記事や難しい言葉を分かり易く解説している記事は、生徒にとっ付きやすいし、新聞を読むきっかけとなつてとてもよかった。

*社会科を教える以上、最低限世の中のことを知っていなければならない。この記事のおかげで今まで気に留めなかった国内外の出来事が分かった。社会科の教員は毎日新聞を読むことが必要不可欠であることが分かった。

*班によって授業のやり方に個性があった。プリントの作り方、板書や発問の仕方など様々な面で異なっていた。今まで私たちが受けてきた授業の進め方の違いが反映されているようで、興味深かった。

*教員という職業に対するイメージがより具体的になり、今まで何となく理解していたつむりの教員という職業を捉えなおす良い機会となった。

*大学生になって初めて自分の専門科目で教壇に立つことを意識した授業であった。様々なことが目新しく、取り扱う内容や教室の雰囲気がこれまでの教職課程の授業と異なり、最初は大いに戸惑った。しかし、母校での教育実習に行く自

覚を促した。

*社会科がいかにかに生徒に暗記科目ではないことを教えるために、授業をもう一つレベルアップする有意義な時間だった。

*授業準備の重要性、学習内容の工夫、一方通行にならない授業の工夫など今後の実習において重要な情報で、これらを踏まえて授業づくりを行うべきである。

*この授業では、授業案の作り方や工夫のポイントを教えてもらい、実際に授業案を作り模擬授業を行いそこから学んだことをレポートにすることというので、授業を行う際に考えたことを多く発見できた。

*学生である私たちが生徒の立場、教師の立場という両方を経験することで、一方の立場では足りない部分、もう一方を補うべき部分を痛感した。今までの教職の授業ではできなかった経験だと思う。

*事前準備の大変さや授業をやることの難しさ、生徒の前に立つ緊張感に実際に授業をやってみないと分からない。そのため、実際に授業をすることはとても貴重だと思った。

*教壇での立ち位置や視線の配り方、板書のレイアウト、声の大きさなどこれまで先生は生徒のことを考えて授業を展開されてきたので、それを当然と考えてきたが、学生の授業を生徒として受けると違和感があった。

*人に何かを教える際には、100教えるなら100の知識では足りず、120か150の知識が必要で、授業では触れない部分の知識まで必要である。

*同じテーマを扱っても、授業者により教え方や取り上げる内容が違うことは教科の様々な面を知ることができ面白い部分でもあるが、同時に恐ろしい部分でもある。生徒の好き嫌いを左右するからである。

毎月1回、NIE（新聞教育）の一環として、前月1か月に起った主な出来事を政治、経済、社会、国際などの分野ごとに記事をまとめた「NEWS月録」（読売新聞毎月4日付朝刊掲載）と朝日新聞の中高生対象の解説記事「いちからわかる」から教育問題や社会問題などを選び印刷して全員に配布した。

なお、2014年度と2015年度春学期に実施された模擬授業の教科科目とテーマは以下の通りであった（資料参照）。

資料「模擬授業一覧」2014年度及び2015年度春学期

2014年春学期「社会・地歴科教育法1B」模擬授業(42名)

月日	班・授業者学部	教科	科目・分野	テーマ
5.22	1文(キリ)	中学校社会	歴史的分野	イスラムの拡大
	2文(キリ)	中学校社会	地理的分野	地球上の位置
5.29	3文(史)	高等学校地歴	世界史B	ヨーロッパ世界の成立
	4文(史)	高等学校地歴	世界史B	宗教改革
6.5	5文(史)	高等学校地歴	日本史B	第一次世界大戦と日本
	6文(史)	中学校社会	歴史的分野	稲作による生活の変化
6.12	7文(史)	高等学校地歴	日本史B	徳川吉宗
	8文(史)	中学校社会	歴史的分野	欧米列強のアジア進出
6.19	9文(史)	高等学校地歴	世界史B	メソポタミア文明
	10文(史)	高等学校地歴	世界史B	宗教改革
6.26	11文(史)	中学校社会	地理的分野	南アメリカ
	12 経済	中学校社会	歴史的分野	信長と秀吉による統一事業
7.3	13 法	中学校社会	歴史的分野	ペリー来航と条約調印
	14 法	高等学校地歴	日本史B	織豊政権の天下統一

2014年秋学期「社会・地歴科教育法演習1(B)」模擬授業(34名)

月日	授業者学部	教科	科目・分野	テーマ
10.9	法	中学校社会	歴史的分野	琉球とアイヌの人々をつなぐ交易
	経済	中学校社会	公民的分野	互いに助け合う社会
10.23	法	中学校社会	公民的分野	公害の防止と環境保全
11.6	文(史)	高校地歴	日本史B	開国とその影響
	文(史)	高校地歴	日本史B	律令政治の動揺
11.13	文(史)	高校地歴	世界史B	国際協調とドイツ
	文(史)	高校地歴	日本史B	鎌倉仏教
11.20	文(史)	高校地歴	世界史B	アメリカの独立
	文(史)	高校地歴	世界史B	カトリック世界の発展
11.27	文(史)	中学校社会	歴史的分野	ヨーロッパと外の世界
	文(史)	中学校社会	歴史的分野	律令国家でのくらし
12.4	文(史)	高校地歴	日本史B	鎌倉幕府の滅亡
	文(史)	高校地歴	日本史B	中国分割と日英同盟
12.11	文(史)	高校地歴	日本史B	武断政治から文治政治へ
	文(史)	中学校社会	歴史的分野	飛鳥文化と天平文化
12.18	経営	中学校社会	歴史的分野	近代日本を支えた糸と鉄
	文(史)	高校地歴	世界史B	フランス革命

2014年秋学期「社会・地歴科教育法2(B)」模擬授業(12名)

月日	授業者学部	教科	科目・分野	テーマ
10.2	文(史)	中学校社会	歴史的分野	日本列島の誕生と縄文・弥生文化
10.9	文(史)	中学校社会	歴史的分野	聖徳太子の政治
10.23	文(史)	高校地歴	世界史B	中国の古代文明
11.6	文(キリ)	高校地歴	世界史B	西欧の中世文化
11.13	文(キリ)	高校地歴	世界史B	東地中海世界
11.20	文(史)	高校地歴	世界史B	ロシア革命
11.27	文(史)	高校地歴	世界史B	イスラーム世界の形成と発展
12.4	文(史)	高校地歴	世界史B	ヨーロッパ諸国の海外進出
12.11	経済	中学校社会	歴史的分野	近世から近代へ
12.18	経済	高校地歴	世界史B	プロイセン・オーストリアの絶対王政
1.8	経済	中学校社会	歴史的分野	飛鳥文化
1.15	文(史)	中学校社会	歴史的分野	大化の改新

2015年春学期「社会・地歴科教育法1B」模擬授業(47名)

月日	班・授業者学部	教科	科目・分野	テーマ
5.20	1文(キリ)	高校地理歴史	世界史B	宗教改革
	2文(キリ)	高校地理歴史	世界史B	イスラーム社会
5.27	3文(史)	高校地理歴史	世界史B	大航海時代
	4文(史)	中学校社会	歴史的分野	文明開化
6.3	5文(史)	高校地理歴史	日本史B	幕藩体制の成立
	6文(史)	中学校社会	歴史的分野	ペリー来航と開国
6.10	7文(史)	高校地理歴史	日本史B	日清戦争から日露戦争へ
	8文(史)	中学校社会	歴史的分野	武家政権の成立
6.17	9文(史)	高校地理歴史	世界史B	ウィーン体制
	10文(史)	高校地理歴史	日本史B	第一次世界大戦
6.24	11文(史)	高校地理歴史	世界史B	フランス革命
	12文(史)	高校地理歴史	世界史B	ギリシャ世界
7.1	13経済	中学校社会	歴史的分野	開国と不平等条約
	14法	高等学校地歴	日本史B	摂関政治
7.8	15文(教育)	高等学校地歴	世界史B	封建社会の成立

【注】

- 1) 太田正行「観光学部での学びを活かした『社会・地理歴史科教育法』の授業実践」(立教大学教職課程『教職研究』第23号p31～37 2013年4月)
- 2) 国立教育政策研究所「平成15年度小・中学校教育課程実施状況調査結果」[平成17年度高等学校教育課程実施状況調査]